

琳派展XVI

光琳を慕う—中村芳中



花卉図画帖 中村芳中 細見美術館蔵

平成26年5月24日(土)→6月29日(日)

※会期中展示替有

Information

入館料 ●

一般 1100円(1000円)

学生 800円(700円)

※()内は20名様以上の団体料金

休館日 ●

毎週月曜日

開館時間 ●

午前10時～午後6時

(入館は、午後5時30分まで)

会場 ●

細見美術館

京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

tel.075-752-5555

中村芳中(なかむらほうちゆう)は、江戸時代後期に大坂を中心に活動した画家です。最初は文人画風の山水画や、筆以外のものを用いて描く「指頭画」を描きますが、尾形光琳(1658～1716)の絵に傾倒し、「たらし込み」と呼ばれる琳派が好んで用いた墨や絵具の滲みやぼかしを活かした技法を駆使した作品を描くようになります。

江戸へ下った芳中は、享和2年(1802)に『光琳画譜』を出版します。これをきっかけに芳中は、「光琳風の画家」として活動の幅を広げ、琳派風の作品を多く遺しました。そのほのぼのとした、おらかな作風は、近年注目を集めるようになっていきます。

このたび当館では、琳派展の第16弾として「光琳を慕う—中村芳中」を開催いたします。本展覧会では、芳中の初期作である指頭画や山水画のほか、独特なたらし込みを駆使して描いた草花図扇面、芳中が愛した俳諧にちなんだ絵画など、これまでにない規模で芳中の作品をご覧いただける内容となります。

*この展覧会は千葉市美術館(2014年4月8日～5月11日)、岡山県立美術館(2014年9月26日～11月3日)を巡回します。

本紙にて、4名様まで団体料金でご入館頂けます。